

ニュースレター 2021年3月号

目次

新型コロナウイルスと戦うII・激闘編

岡村 光浩
(神戸芸術工科大学准教授)

堺市南区美木多校区の地区防災計画

坊農 豊彦
(大阪市立大学CERD特別研究員)

シリーズ 『時評・書評』 3
国家の罨 外務省のラスプーチンと呼ばれて
佐藤 優著 新潮社

高橋 健太郎
(ジャーナリスト)

シリーズ 「政権交代」 I
プロローグ 「疑似政権交代」の罪

高橋 健太郎
(ジャーナリスト)

廻らなくなった回転寿司
-新型コロナウイルスと回転寿司-

増子 保志
(回転寿司研究家)

新型コロナウイルスと戦うII・激闘編

岡村 光浩
(神戸芸術工科大学准教授)

(前号(岡村2020)より続く:本稿の記述とURLは2021年3月21日現在の情報に拠る)
……あれから1年が過ぎたが、戦いは今も続いていた。

前号では、患者第1号発表時に「持続的なヒトからヒトへの感染の明らかな証拠はありません」と発表し、また初の無症候性キャリアの発生報告時には担当者が「「症状がない人にもウイルスが含まれていることは想定していなかった」と説明した厚生労働省の対応に戦慄し、文末では大正時代に内務省がスペイン風邪についてまとめた報告書の復刻版2を引き合いに出し「各種の記録が早々に処分されたりそもそも議事録が作成されなかったりが常態化している現政府に、例えば今般の流行対応についてここまでの記録が残せるのか、深刻な疑問」を提起したものだ。

その後はそんな私の不安が的中どころか、いわゆる「アベノマスク」や「GoTo」など「対策」のことがごとくが想像の斜め上を行った印象がある政治がとことん迷走した3結果、今や日本は、徹底したコロナ対策が比較的成功的例として知られる台湾やニュージーランドはもちろん、ウイルスの発生源とされつつも(民主主義国家では徹底しきれない)「ロックダウン」以上の「都市封鎖」を以て力業でウイルスを封じ込めた感のある中国をも大幅に上回る感染者を出すに至り(3月21日現在、日本456,247、中国101,526、ニュージーランド2,453、台湾1,006)4、WHO西太平洋地域管内ではフィリピンに次ぐ2位で5、「ドヤ顔」ができる状況にはほど遠い。

世界155カ国・地域でワクチンの接種も始まったが、3月18日現在で世界の累計接種回数400,578,553回のうち、既に112,988,907回の接種を実施し100人あたり接種回数34.1回のアメリカ、27,270,617回・100人あたり40.5回のイギリスに対して、自国でのワクチン開発が遅れた日本は508,702回・100人あたり0.4回なのが現状である6。

山中伸弥京都大学iPS細胞研究所所長が指摘した日本の感染者数・死亡者数が欧米より少ない何らかの要因「ファクターX」も、様々な理由が考察されつつもそれが感染症対策に積極的に活かされるといった場面は結局ないまま、今では当の山中氏のWebサイトからも見当たらなくなってしまった7。謎のアドバンテージを失いワクチンも(自国開発は進まず海外からの調達も遅れて)間に合わず、1月8日以来の緊急事態宣言を「宣言の効果が薄れている」「もう打つ手がない」として既に感染者数が再増加に転じたにも関わらず解除する8日本には、「人類がコロナとの戦いに打ち勝った証として」9海外からの観客受入を断念しつつ10もなお開催に固執する東京オリンピックを無事に開催できる見込みなど、もはやなさそうにも思える11。

さて、政治や社会全体の話が続けてはそれだけで紙面が尽きてしまうので、この辺りでより筆者自身の戦いの話に戻りたい。すなわち、大学におけるオンライン授業に関わる悪戦苦闘である。

感染拡大を受け2020年4月7日に7都府県に発せられた緊急事態宣言は、16日には全国に拡大された。2月27日、政府が3月2日から小中高特支学校の一斉休校を要請した際、既に後期授業が終了していた大学は放置されていたが、3月27日ようやく文部科学省高等局長から大学高専等に「令和2年度における大学等の授業の開始等について(通知)」12が発出され、「遠隔授業の方法により修得する単位数については(中略)主として面接授業を実施するものであり、面接授業により得られる教育効果を有すると各大学等の判断において認められるものについては、上記上限の算定に含める必要はない」とのお墨付きを得て、各大学もオンライン授業の実施に本格的に舵を切った。

筆者の本務校においても、流行以前に策定された学年暦では4月10日であった授業開始が20日→5月11日に変更となり、当初は5月中オンライン、6月以降は対面再開という選択肢もあったのだが、結局前期を通して(語学を含む講義科目は)遠隔(オンライン)授業、という方針に決し、基礎分野(いわゆる一般教養)の英語を担当する筆者の科目13はすべて遠隔オンデマンド型(課題や動画の配信と課題提出による非同期型オンライン授業)となった14。かくて毎週4科目の動画作成と配信のために、毎週複数回の動画制作に「(パラメータ)全振り」する戦いの日々が始まったのである。

各科目とも教科書をベースにした(合計)90分前後の動画による授業を実施した。

聴覚障害をもつ学生を担当したのがきっかけで、コロナ禍以前から、教科書のページを書画装置でプロジェクター投影し、書込ながら授業する方法を試していた。これに準じた授業を実現するために、PowerPointで作成したスライドに授業動画作成のために新規購入した液晶ペンタブレット(Wacom One15)で書き込みを入れながら授業する動画を収録し、動画に変換してアップロードし公開した16 17 18。

各回毎にWebフォーム19による課題を課し、次回授業で課題の解説やコメントへのフィードバックを行った。

ニュースレター 2021年3月号

付記：当初はPowerPoint標準搭載の機能により変換していたが途中から変換作業に特化した外部ソフトを導入した。（動画をBD/DVDディスクに焼くことができるもの）

Leawo powerpoint to DVD Pro <https://www.leawo.org/jp/powerpoint-to-dvd-pro/>

（動画変換機能のみの廉価版）

Leawo powerpoint to video Pro <https://www.leawo.org/jp/powerpoint-to-video-pro/>

いろいろな動画方式に変換したり、要素を追加しながら変換できるのが「売り」のソフトだが、変換エンジンはPowerPoint本体のものを流用しており、変換中はPowerPointを止めるように言われる。専用ソフトなら負荷が軽くなって変換が高速化されるかと思って購入したのだが、そういう話ではなかったのには失望した。これで外部ソフトの方が変換失敗率が高ければ使用をやめるだけだが、引っかかるときは本当にささいなことで引っかかるらしく、本体で引っかかった時に外部ソフトで通ったこともあったので、本体とどちらがいいのかは判然としない。

動画制作が日常的となった「ニューノーマル（新たな日常）」においては、16GB RAM搭載のノートパソコンでは力不足なのは確かだったので、新年度に備えて春休みの間に搭載RAM 16GBから32GBのパソコン(Panasonic Let's Note CF-SVI 20)に乗り換えた。

科目毎の授業動画とは別に全クラス向けの動画を制作し、大学のポータルサイトに掲出された折々の学生向け告知の確認・英語の勉強法についての質問への回答・発達障害をうかがわせる学生を含む不安への励まし、その他学生から出てきたコメントに対するフィードバックのうち特にクラスを分けられないものや（余力のある学生への対応を兼ねて）新型コロナウイルス感染症や新たな日常、アメリカ大統領選挙等について、BBCやReutersなど日本語訳がある英語ニュースの紹介や解説などを提供した。

前期は時間割どおりの曜日・時刻に配信していたが、1日に複数科目の授業がある日にPowerPointスライドから動画への変換作業に失敗すると当日の配信が難しくなるため、後期は教務課の同意を得て「1日1科目（同一科目のクラスは同時配信）」に配信日を調整し配信したが、それでも1週間に4科目の動画による授業の制作は負荷が大きく、週に複数回徹夜になることが避けられなかった。

このような強行軍は20代に留学して以来で、どこまでが授業準備のためでどこからが加齢の影響か切り分けが難しいが、11月下旬より右肩に痛みを生じ、肩こりでは済まされないものを感じて整形外科を受診した結果「右肩関節周囲炎（五十肩）」と診断され、治療を受けつつ庇いながら動画作成を続けるうち、今度はかつて仕事上の事故でヒビを入れた右ひじも「上腕骨外側上顆炎（いわゆる「テニス肘）」の診断を受け、ブロック注射（局所麻酔薬＋ステロイド消炎剤）を10か所以上打ちながら仕事を続ける羽目に陥った。

筆者自身が「成人発達障害当事者NPOの役員21で若者居場所づくり事業22のスタッフもしている、元声優志望のアニメ・特撮おたく」であることを例年以上に全面に押し出して動画を収録したため、そういう傾向のある学生が発言しやすい環境であったことも要因であると思われるが、動画で世界（と日本）の新型コロナウイルスに関する情勢や、アート&デザインにも関わる「新しい日常」についての（英語）ニュースを積極的に紹介すると共に、学生が課題フォームの自由記述欄に書いたコメントを積極的に採り上げ、授業で採り上げた映画やアニメに関連して学生が奨めてきた作品（映画・アニメ・まんが・洋楽PVなど）も視聴して感想を述べるなど、「情報（バラエティ）番組」あるいは「ホームルーム」的な時間を共有したことが、「ステイホーム」を強いられた学生には大変好評で、

自宅にテレビがないのでコロナのニュースはこの授業で得ている

週に1度のこの授業が癒しになっている（？）

等の感想があった。また課題フォームと合わせてとったアンケートでも（クラスによって若干の差はあるが）

4～8割の学生が講義科目は遠隔続行希望

岡村限定に至っては9割近くが遠隔希望

という結果となった。

与えられた制約下において「世界に目を向ける」姿勢を奨励する動画教材作成に全力を投入してきたが、前期はその甲斐あって「中・高校と不登校・通信制その他で対面式授業の経験がない（1年）」「入学後も語学の単位がまったく取れずにいた（2年以上）」など、「語学以前にコミュニケーションを苦手とする」学生が状況によく適応して単位を取得したが、この傾向は後期も同様であり、授業内でアンケートを取った際にも当方の英語授業について大多数から「受講してよかった」との感想を得た。

ニュースレター 2021年3月号

もともと国際関係論／国際政治専攻から国際教育／留学生交流を主に担当する大学職員を経て現職に就いた筆者は、授業に絡めて国内外の様々な話題を紹介することを通じて、世界の動勢にアンテナを伸ばすよう学生を指導してきたつもりだが、（感染症対策の観点からは、完全には無理だと判っていても「ゼロコロナ＝撲滅」を目指さない限りこのパンデミックは終わらないと感じつつも）「With/Afterコロナ」の世界を考えると、（海外）ニュースに関心を持つことは自分自身と家族の命に関わるし、「New Normal」のトレンドをいち早くつかむことはクリエイターとして生き残るためにも必要である。その一方で、本務校は「『芸工大』なのだから、（発達凸凹も含めて）コミュニケーションに多少難がある」（無口で）職人気質な学生にも居場所がなくならないようにしてやりたい」との思いもある。これらの課題に対する手段として、また学生の退学防止の方策としても、コロナ禍終息後も遠隔授業の選択肢は維持されるべきだと考えている。

筆者には筆者の思いがあるように、学生（やその家族）にもまた、「#大学生の日常も大事だ」「#大学生の生活も大事だ」といったTwitterハッシュタグに代表される、入学前に憧れていた大学生活をコロナに（大学に）奪われたとの思いがある（もちろん本人や家族に既往症がある、高齢者や医療・介護従事者の家族と同居しているなど、コロナに対して強い警戒感を持つ学生もいる）。そして私以外の大学関係者にもそれぞれの思いがあり、Facebook上には20,663人のメンバーを擁する以下のグループが存在する。

新型コロナのインパクトを受け、大学教員は何をすべきか、何をしたいかについて
知恵と情報を共有するグループ <https://www.facebook.com/groups/146940180042907>

【グループの趣旨・目的】新型コロナウイルス感染症は、大学の授業やその他業務に大きな困難をもたらしました。この事態が大学に引き起こす中長期的な影響も見逃ごせません。遠隔授業を含むICTの可能性は、大学の姿を変えていくでしょう。この事態に対して、所属や専門を越え、ボヤキや情報、取り組み、ノウハウ、経験などの知を共有するためのグループです。大学教員中心ですが、職員や学生の方、さらには大学教育に関心を持つあらゆる方々を歓迎いたします。

昨年3月始動した上記グループに、前号でも述べた管理人稼業（無給）の経験を活かし、「ステイホームでできる社会貢献活動」として、今春から筆者もモデレータに加えていただくことになった。情報交換やさまざまな立場からの自由闊達な意見交換のお手伝いできれば幸いである。戦いはまだ終わらない。

（次回、新型コロナウイルスと戦うIII（旋風編）、……以下IV（風雲竜虎編）V（激突！）と続く23かどうかは不明……って、そんなに続いてはたまらないが）

<引用・参考文献>

- 一般財団法人 [アジア・パシフィック・イニシアティブ\(2020\)](#) 『新型コロナ対応・民間臨時調査会 調査・検証報告書』 デイスクヴァー・トゥエンティワン、kindle版
- 岡村光浩(2020) 『新型コロナウイルスと戦う』 『日本国際情報学会ニュースレター』 2020年3月号:2-5
- [飯田泰士\(2020\)](#) 『新型コロナウイルス感染症(COVID-19)』 現代企画室
- 『現代思想』 2020年10月号(48(14)) 「特集 コロナ時代の大学—リモート授業・9月入学生議論・授業料問題」
- 内務省衛生局(2008) 『流行性感冒—「スペイン風邪」大流行の記録』 平凡社（東洋文庫）
- 内務省衛生局(2021) 『現代誤訳 流行性感冒—一九一八年インフルエンザ・パンデミックの記録』 西村秀一訳、平凡社
- [長谷川卓志\(2021\)](#) 『新型コロナウイルス感染症、2020年市中の動き』 ブイーツソリューション
- 早川真(2020) 『ドキュメント武漢—新型コロナウイルス 封鎖都市で何が起きていたか』 平凡社（平凡社新書）、kindle版
- 方方(2020) 『武漢日記 封鎖下六〇日の魂の記録』 飯塚容、渡辺新一訳、河出書房新社、kindle版
- 村上昌之 「コロナ禍における大学でのオンライン授業の実情と課題」 『現代思想』 48(14):67-74
- 堀和世(2021) 『オンライン授業で大学が変わる—コロナ禍で生まれた「教育」インフレーション』 大空出版

ニュースレター 2021年3月号

- 1 前号文中で紹介した、自作の「2019新型コロナウイルス関連リンク集」は、情報過多と本務多忙で更新が追いつかなくなり、「鮮度の落ちた感染症情報」は閲覧者の命に関わるので公開を中止した。
- 2 内務省衛生局(2008)、その後現代語訳版(2021)も刊行された。
- 3 この間の(時系列を含む)経緯については、長谷川(2021)、飯田(2020)、アジア・パシフィック・イニシアティブ(2020)などを参照。
- 4 COVID-19 Map - Johns Hopkins Coronavirus Resource Center <https://coronavirus.jhu.edu/map.html>
- 5 WPRO COVID-19 Dashboard <https://who.maps.arcgis.com/apps/opsdashboard/index.html#/345dfdc82b5c4f6a815f1d54a05d18ec>
- 6 チャートで見るコロナワクチン 世界の接種状況は：日本経済新聞 <https://vdata.nikkei.com/newsgraphics/coronavirus-vaccine-status/#cumulativeVaccinationsWorldwide>
- 7 山中伸弥による新型コロナウイルス情報発信 <https://covid19-yamanaka.com/> 内をGoogle検索した結果による。
- 8 尾中香尚里「緊急事態宣言解除で「打つ手」失った菅政権－第4波にどう対峙するのか」47news(2021.3.19) 47NEWS <https://this.kiji.is/745530846120755200?c=39546741839462401>
- 9 「令和3年2月20日 G7首脳テレビ会議についての会見」首相官邸ホームページ(2021.3.20) https://www.kantei.go.jp/jp/99_suga/statement/2021/0220kaiken.html
- 10 「東京五輪・パラ、海外からの観客受け入れ見送りを決定」BBCニュース(2021.3.20) <https://www.bbc.com/japanese/56468985>
- 11 「コロナ収束「来年以降」 尾身会長、参院予算委で見通し示す」毎日新聞(2021.3.19) <https://mainichi.jp/articles/20210319/k00/00m/040/202000c>
- 12 https://www.mext.go.jp/content/20200324-mxt_kouhou01-000004520_4.pdf
- 13 筆者は基礎英語(1年次向け)・表現のための英語(担当講師により内容は異なるが、筆者の場合はクリエイティブ系の職業人へのキャリアインタビューのクラスとTOEIC対策入門のクラス)・現代英語(アート&デザインに関連した読み物など)の授業を担当。
- 14 英語コミュニケーション(英会話)については、一部が遠隔リアルタイム型(Zoom/Microsoft Teamsの使用による同期型オンライン授業)で実施された。
- 15 <https://www.wacom.com/ja-jp/products/pen-displays/wacom-one>
- 16 前期は筆者の慣れを優先してYouTubeのURLによる限定公開機能、後期は大学が契約しているMicrosoft Stream(Microsoft Teamsとの連携により当該授業の受講者のみに公開)を使用。
- 17 その他、収録音声改善のためドイツ・Sennheiser社製のヘッドセット等も購入、諸々の授業環境整備やオンライン授業関連の参考資料の購入で、政府の特別定額給付金10万円はあっさりを使い切ってしまった。
- 18 なお教科書会社からは「授業目的公衆送信補償金制度」に係る教科書PDFデータの利用許諾を取得済である。
- 19 前注同様、前期はGoogle Forms、後期はMicrosoft Formsを使用。
- 20 <https://news.panasonic.com/jp/press/data/2021/01/jn210113-3/jn210113-3.html>
- 21 NPO法人DDAC(発達障害をもつ大人の会) <https://www.adhd-west.net/>
- 22 居場所なあなあ | NAAH <http://www.naah.jp/naanaa.html>
- 23 必殺仕事人 - Wikipedia <https://ja.wikipedia.org/wiki/%E5%BF%85%E6%AE%BA%E4%BB%95%E4%BA%8B%E4%BA%BA>

地区防災計画における安否確認に関する一考察 —堺市南区美木多校区の事例から—

坊農 豊彦

(大阪市立大学 都市防災教育研究センター特別研究員)

1 はじめに

近年、豪雨災害が多発し、河川氾濫、土砂災害等により多くの人的被害が発生している。さらに、昨年より新型コロナウイルス感染症の発生により、避難所の収容人数を始め、運営方法の見直しを余儀なくされ、地区内での分散避難を検討することが必要である。地域によっては、指定避難所まで遠距離避難を要する所もあり、このような地域では、自治会エリア内で、一時避難場所を確保する等の対応を検討することが求められる。

本稿では、大阪府堺市南区美木多校区（以下、「校区」）における地区防災計画の策定に向けた取組内容として、自治会単位の新たな避難場所の選定と避難場所での安否情報および被災情報を美木多校区災害対策本部（以下、「本部」）に集約する方法について報告する。

2 大阪府堺市南区美木多校区の概要

本校区は泉北ニュータウンに位置しており、古くからの集落と泉北ニュータウン開発に伴う新興住宅地等を含む自治会とが混在している小学校区である。

校区の特性として山間部、旧住宅地、新興住宅地と3つのエリアに分れた自然特性があり、世帯数は5,116世帯、人口は12,107人、高齢化率は27.3%（令和2年3月末現在）の社会特性になっている。美木多校区は和田川に沿って約6kmの細長い地区であり、山間部では、これまでに大雨の度に土砂崩れが発生している。

3 地区防災計画の検討

初回の会議では、地区防災計画制度について説明するとともに、計画策定に先駆けて20実施した「住民の防災に関するアンケート調査」の結果について報告があった。アンケート調査では特に指定避難所である美木多小学校から遠方にある別所地区（上別所、下別所）の避難場所を自治会館と考えている人が7割を占めていることが報告された。その結果、別所地区のように遠距離避難を要する地区の避難場所について検討するとともに、別所地区を含む土砂災害警戒区域が含まれる地区については、避難開始時期についても検討することとなった。

次に土砂災害警戒区域が含まれる上別所、下別所、上北、上南、檜尾の5地区について、「防災まちあるき」を実施し、区域内の危険個所の状況について共有した。その結果、下別所自治会館は隣接するみかん山が土砂災害警戒区域内に位置しており、上別所自治会館も区域に隣接しており、竹藪が崩れた場合に被災することを確認した。

その結果、各自治会で最初に集まる「一時集合場所」から「自治会単位の避難場所」、や「指定避難所」までの避難経路を検討することとした。避難単位別情報の流れについて図1に示す。

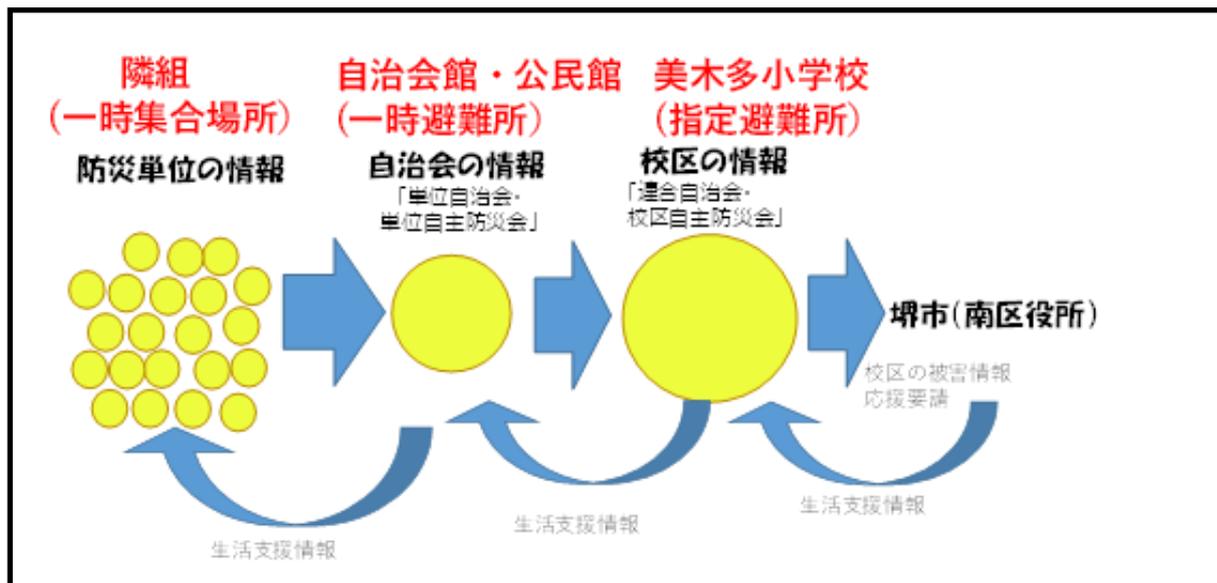


図1 避難単位別情報の流れ図 （出典：NPO法人とれじゃーBOXの資料を基に引用）

避難方法で重要になる安否確認について、自治会単位で収集した情報を本部と共有する方法や手段、及び共有する情報の内容について検討した。今後、遠距離避難を要する自治会では、自治会単位の避難場所と本部との情報連携を行うことで、校区全体の被災状況等を把握し、行政機関と連携する体制を検討する予定である。

4 まとめ

本稿では、遠距離避難を要する校区の避難について、自治会単位に指定避難所まで一律に避難するのではなく、自治会エリア内で安全な避難場所を確保し、本部と情報連携しながら、災害状況に応じた避難行動を行う分散避難の考え方を取り入れた地区防災計画を策定を目指している。また分散避難を行うことにより、指定避難所である美木多小学校の利用者数の削減や遠方からの車の利用による避難者、要配慮者の削減にも有効な避難行動となるものと思われる。

さらに、大規模災害時で、通信インフラが途絶した場合を想定し、自治会単位の避難場所と本部との間で、地区防災無線網を活用した情報共有についても実証実験を通じて検討した。今後、策定した計画について、情報連携訓練を実施して、実効性を検証することにより内容をさらに充実させたい。

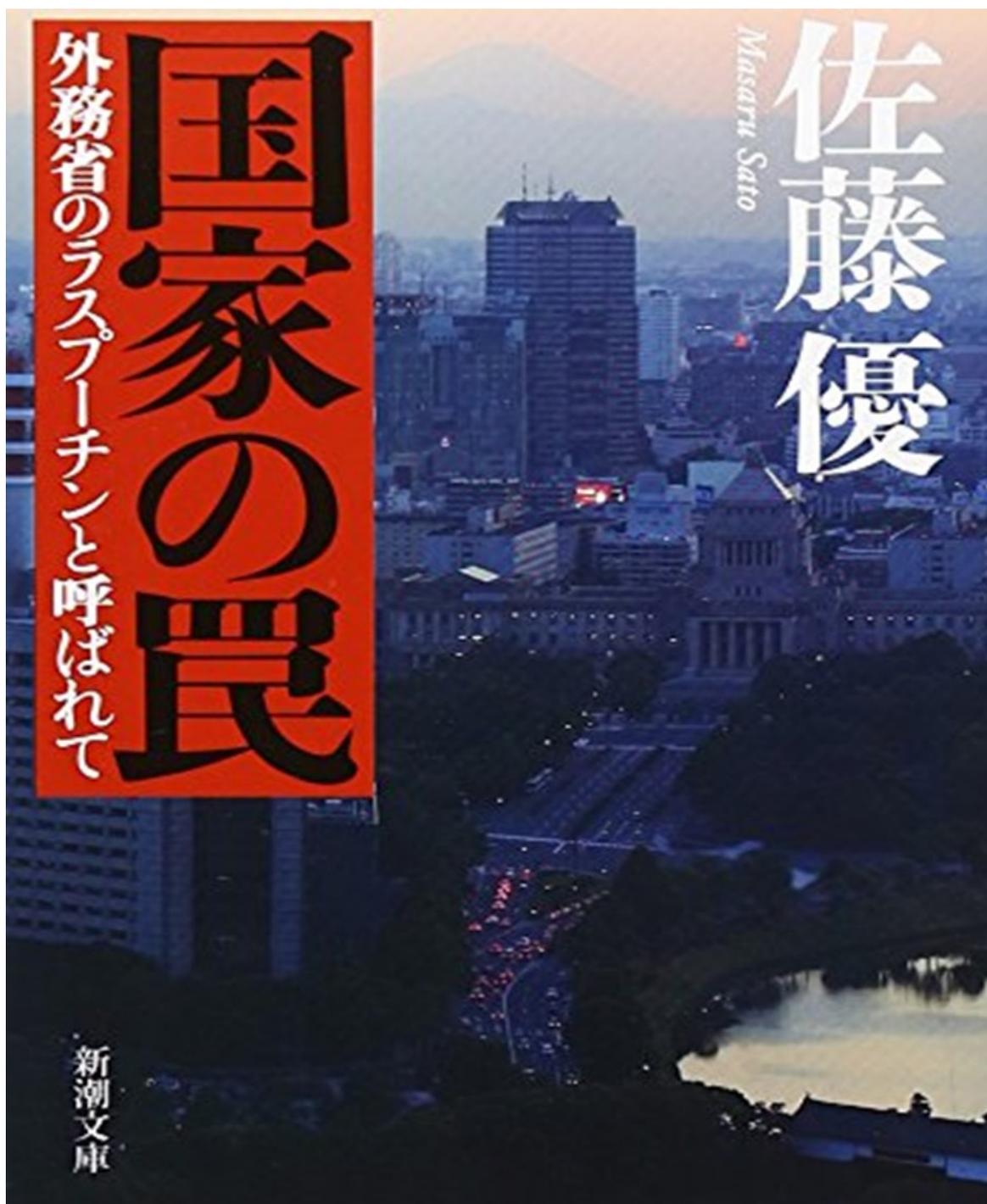
[参考文献]

西澤 雅道、筒井 智士、2014年7月10日「地区防災計画制度入門：内閣府「地区防災計画ガイドライン」の解説とQ&A」NTT出版、P54-72

ニュースレター 2021年3月号

シリーズ 『時評・書評』 3
国家の罨 外務省のラスプーチンと呼ばれて
佐藤 優著 新潮社

ジャーナリスト 高橋 健太郎



ニュースレター 2021年3月号

1998年の秋口、外務省国際情報局分析第一課内に「ロシア情報収集・分析チーム」（通常、ロシア案件は、ロシア課が担当）が実質的に発足。佐藤優主任分析官（閣僚のロシア語担当通訳等歴任）が「チームリーダー」。

「日ロ平和条約」締結を目指し、国際情報局長及び欧亜局長の指揮監督下、「官邸主導」で活動した。

平和条約締結後に「領土交渉」を動かし「北方領土返還」へつなげることがチームの目的。

しかし、平和条約は締結されず、「鈴木宗男自民党総務局長（幹旋収賄容疑で逮捕、実刑判決）の意向を受けた『私的外交』を展開した」との批判を招いた。

小泉内閣成立、田仲眞紀子氏が外相就任。佐藤氏は「本省」から外交史料館へ異動となる。

2000年にテルアビブ大学主催の国際会議「東と西の間のロシア」に日本の大学教授らを派遣した際、外務省関連の国際機関「支援委員会」から経費を支出したことが「背任」に問われ東京地検特捜部に逮捕（後に偽計業務妨害で再逮捕・最高裁で有罪確定、外務省職員の場合は、自動失職）される。

逮捕前夜から一審判決までを中心に記述。文庫化され「文庫版あとがき 国内亡命者として」が加わった。

本書を手にする方は「文庫版あとがき 国内亡命者として」から目を通して欲しい。執筆の動機を二つに分け、第一の動機は「私が逮捕された背任・偽計業務妨害という事件について、真相が何であったかということについて説明すること」と考え、獄中でノートにまとめたメモを再構成。簡易製本し外務省の後輩等に配布する予定だったが「外務省関係者に限るという発送自体に外務官僚としての思考の硬直化が表れていると気付いたからだ」という。

第二の動機は「鎮魂」。「鈴木氏は、政治家としての洞察力に優れ、実効力をもった政治家である。私が経験したなかで、鈴木氏は嘘をついたことはないし、約束したことは守った。」

鈴木氏への評価は高い。「複数の外務省幹部が『浮くも沈むも鈴木大臣と一緒にです』と誓いの言葉を口にして、文字通り土下座する姿を何度も目の当たりにした。（中略）ライバルを蹴落とすために多くの外務官僚が鈴木氏にすり寄った。」

鈴木バッシングが始まると一転、外務官僚は態度を豹変する。醜悪な外務官僚の実名は、「外務省犯罪黒書」（講談社・佐藤優著）に譲る。

取り調べ室で検事が発した「国策捜査」という文言は、新語用語辞典にも掲載、「市民権」を得た。

「起訴休職外務事務官」から職業作家・大学教員へと表面的な立場は異なるが、「情報屋」としての嗅覚鋭い。

本書は版を重ね文庫化。第59回毎日新聞出版文化賞特別賞を受賞。元外務省国際情報局主任分析官の予想は大きく外れ、世に広く受け入れられた。

様々な媒体に連載を抱え、新潮ドキュメント賞、大宅壮一ノンフィクション賞等も受賞する「人気作家」となった。

腕利きの「情報屋」も「私事」の予想は難しいようだ。

シリーズ 「政権交代」 I プロローグ 「疑似政権交代」の罪

ジャーナリスト 高橋 健太郎



▲不出馬を表明する鳩山元総理
(2012年11月27日、撮影・高橋健太郎)

▲総理退任後、初の会見に臨む菅元総理
(2012年7月31日、撮影・高橋健太郎)



▲菅政権発足を伝える主要地方紙。「出身地」の地方紙『秋田魁新報』は、号外も発行。「選挙区」の地方紙『神奈川新聞』と取材協力(2020年9月17日、撮影・高橋健太郎)

菅政権が発足し、3月16日で約半年。「コロナ過」対応や総務省の「接待問題」等で、支持率は下落傾向が続く。「麻生政権の末期に近い」と考える識者もいる。

麻生政権は、2009年の総選挙で敗れ民主党政権発足を許した。民主党は、2012年の総選挙で大敗。自民・公明党が政権を奪取、安倍政権が発足した。

安倍政権の第一次からの通算は、3188日。歴代政権最長となったものの、「国政私物化」と批判された「桜を見る会」「森友問題」等に多くを語らないまま退陣。

安倍政権の継承が「私の使命」と語った菅総理は、「桜を見る会」を中止する考えを示し、「森友問題」は「再調査しない」という認識を示した。

民主党政権 二人の総理経験者
衆院選「不出馬会見」

2009年の総選挙で圧勝。異例の高支持率で鳩山政権発足。

しかし「普天間基地」の移設問題がネックとなり、僅か10ヶ月で退陣。

鳩山元総理の引退会見。選挙区の室蘭で「衆院選不出馬」を表明したものの、在京メディアの求めに応じて都内でも会見が設定された。

定刻前に会見場に入ると記者団に一礼。司会者に「立ったままでよろしいですか」と問いかけ「公約を実現できなかった」ことを謝罪。「引退後も『東アジア共同体』の理念は生かしていきたい」などと述べた。

退陣後の会見

退陣から11ヶ月。菅前総理(当時・2012年7月)が麹町の会見場へ姿を見せた。会見予定時間は過ぎている。会見者席に座るなり、上着を脱いでペットボトルの水を飲む。「二口で半分」に減った。

会見では、「原子カムラ」への批判と「再生可能エネルギー」への思いを語る。「記者会見」が「選挙演説」のようだ。

政権運営や記者対応のスタイルも異なる二人。発足当時の高支持率は続かなかった。

歴代政権の失政の原因は、「危機管理」等様々だが、本シリーズでは、「外交」「安保」そして、「記者対応」をキーワードに各界に取材、検証する。

今回は、鳩山内閣。

廻らなくなった回転寿司 - 新型コロナウイルスと回転寿司 -

回転寿司研究家 増子保志

私は回転寿司が好きだ。勿論、一般的な寿司屋で刺身を摘まんだり、お任せで握りを頂くのも好きだが、回転寿司の方が数倍好ましい。敷居は低いし、何よりお会計が明朗、安価である。いつの間に、寿司屋が「高級」になり、偉そうな職人の言いなりになっている現象に関しては、今後の研究が待たれるところだが、周りの雰囲気や懐具合を気にしながらお寿司をつまんでも、ちっとも美味しくない。私には回転寿司が合っている。

回転寿司と言え、レーン上をくるくる回っているお寿司を、誰に気兼ねすることなく、自分のペースで好きなものを自由にチョイス、懐具合をさして気にすることなく頂ける“お寿司の楽園”と言えるであろう。



そんな“お寿司の楽園”こと回転寿司のレーンが、廻らなくなった・・・。

そう、新型コロナウイルスである。新型コロナウイルス対策として、消毒をし、密を避け、ソーシャルディスタンスを保つなどが奨励されている。

特に飲食業界には厳しい対策が課せられた。当然、回転寿司業界も例外ではなく、各種の対策が取られている。客席の間にはアクリル板が設置され、板前さんとの間にはビニールシートが貼られている店舗も散在する。

最近、自身の研究のためと某ブログ1のために足繁く？回転寿司に通っているが、今までクルクル廻っていたお寿司が全く廻っていない。レーンには、お寿司の代わりに今日のおすすめメニューなどが虚しく廻っている。果たして、お寿司を廻さない事=新型コロナウイルス対策になるのかは不明であるが、かかる状況下では仕方がないのであろう。

さらに、すし職人との会話を避けるためオーダーコールが無くなり、タッチパネル式によるオーダー形態が採られるようになった。

ニュースレター 2021年3月号



廻らなくなった回転寿司に登場したのが、客の目の前まで高速でお寿司を運ぶレーン（特急レーンと称する）である。以前より大手チェーン店では使用している店舗もあったが、現在は、中小の回転寿司屋でも取り入れられている。

1958年に、大阪で初めて回転寿司店がオープンして以来、レーンの上をお寿司が廻るのが回転寿司の「日常」であった。新型コロナウイルスの影響で今までの「日常」が当たり前ではなくなった。

かかる状況においても、お寿司をガンガン廻し続けていた、回転寿司トップの「スシロー」HDは、2020年9月期の売上高が2000億を超え、一人勝ちとなった。持ち帰り寿司中心の「京樽」も「スシロー」に買収され、完全子会社となり、「持ち帰り（テイクアウト）寿司」への参入が期待されている。



現在、回転寿司市場規模は、寿司業界全体の約50%を占めるに至っている。

寿司業界は、高級化と低価格化の二極化が著しい。

歴史的に、戦争や災害などを契機に食文化は、新しいスタイルに変化する傾向が多く見られる。

新型コロナウイルスを契機として「廻らなくなった」ことだけではなく、回転寿司業界がどの様にこの先、変化していくか目が離せない。

編集後記

投稿者の皆様には、コロナ禍の中、年度末の忙しい時期に原稿をいただき大変感謝しております。

本学会もコロナ対策としてオンライン（Zoom）の有料アカウントを取得しました。オンラインで研究会を開催すると、いままで参加できなかった方々もアクセスしていただき、ある局面で学会活動の広がりを見せています。みなさまも、どうぞご活用ください。

来年度も引き続きまして宜しくお願い致します。

坊農 豊彦